

聞き取る内容を明確にした「聞くこと」の学習

久村 真司

1 学習のめあて（実現したい言語能力）

- 立場の表明，意見の表明，要求，感情の表明，情報の伝達など，話の主たる性質が聞き分けられる。
【正確な聞き取りのための技能】
- 上の内容をそれぞれ聞き分ける。
【正確な聞き取り・吟味のための技能】
- 原因・理由・根拠を聞き取る。【正確・吟味】
- 相手の立場，意見，要求，感情，情報，原因，根拠などを相手に確認し，正確に把握することができる。【正確】
- 相手の意見を踏まえて，自分の立場，意見，要求，感情，情報などを伝達する。【話すこと】

2 単元計画（①を除いて3時間）

①相手の話を要約する（帯単元1回10分15回）

ここでは，①は帯単元として扱い，1分程度のスピーチを聞く練習を約1か月間行った。話し手は教師が10回，生徒が2回で，録音教材を3回用いた。

聞き取りカード

___組 ___番 氏名_____

- 1 スピーチの性質
当てはまるものに☑をつけましょう。(複数可)
 立場の表明
 意見の表明
 要求
 感情の表明
 情報の伝達
- 2 上の内容
- 3 原因・理由，根拠

資料1 聞き取りカード

この活動を帯単元とした理由は，第一に，対象とした生徒たちの多くが「正確な聞き取り」の段階でつまづいており，基礎的な聞き取り練習に時間をかける必要があったこと。第二に，基礎的な技能は，1回の練習時間を長くするよりは，短い練習時間でよいから長期間行うことが効果的であること。第三に，私は，言語活動の45%～55%を占めるといわれる「聞く」ことは，人間にとって主要な言語活動であるとともに，文化や立場が異なる人々と豊かな関係を築くために最も重視されるべき能力であると考えているのだが，年間指導計画の中に特設される「聞くこと」の学習は，一般的に1単元4時間程度であり，現状では単元や時数を増やすことは難しいこと。以上3点から，帯単元を設定し，約1か月15回（約150分）の練習を行った。

聞く側の生徒は，4～5人のグループを作り，「今日の要約発表者」を一人決めておく。そして，要約発表者はスピーチの後すぐに，聞き取ったことを要約して発表する。グループ内の他の生徒は，発表者の聞き漏らしや思い違いを補足し訂正する。

また，聞く側の実態に応じて聞き取りカードを用いる（資料1参照）。今回は聞き取りカードを第1回から第10回まで用いた。その後は個々の生徒に応じて聞き方を決めた。特に，聞くことが極めて苦手な生徒に対しては，「今日のスピーチで，先生は反対と言いましたか。賛成と言いましたか。」などという具体的な質問をあらかじめ決めてから聞いた。最終的にはメモを取らずに話し手に集中して聞き，スピーチが終わったらすぐに要約して発表するということを目標とした。

②自分の意見を話す（2時間）

相手の話言葉で反応をする活動である。最も初歩的な反応は，賛成か反対かの立場を表明することである。あくまでも「聞くこと」に主眼を置いた活動なので，意見を述べている生徒が，正しく聞き取った上で述べているのかどうかということ

を、聞き手が常に評価するということが必要である。

次のような手順で進める。

A) 4～5人の班を作り、意見を言う順番を決める。

B) 教師の話（2分）

C) 全員が教師の話に対する意見を考える。（5分）

D) 班の一人目が意見を言う。（2分）

他の班員は、次のような評価ポイントを持ってDの発表を評価する。（3分）

- 立場、意見、要求、感情、情報、原因、理由、根拠が正しく聞き取れているか。
 - 「部分」に反応していないか。
 - 主張に根拠があるか。
- E) 順次一人ずつ意見を発表する。
- F) 一人ひとりの意見に対して相互に意見を言う。

Fの活動は、③の「聞き取り座談会」に近い話し合い活動になり、この時間のめあてからは外れる活動となる。しかし、そもそも聞いたり話したりすることは理由があって行うことであり、相手からの反応を期待して行われるものである。できるだけ「聞く・話す」という言語活動の本質から外れないために、この活動を設けている。

全体的に②の活動では、「正しく聞き取った内容」に対して意見を述べるという学習の目的が、全員に共有されていなくてはいけない。自分に都合のよい「部分」だけに反応したり、揚げ足を取ったりすることがないように、生徒全員で互いに注意を喚起し合うことが必要である。そのために、①の活動で用いたものに準じた評価カードを使っている。基本的に評価カードやワークシートは簡潔なものがよい。凝りすぎても、逆に粗すぎても必要な情報を読み取りにくいからである。

さらに、生徒たちは、根拠のない立場の表明や主張があっても違和感を覚えないことがあるので、立場を表明したり主張をしたりする場合は、必ずあわせて根拠を示すということを徹底したい。

③聞き取り座談会（1時間）

この活動は、①および②の活動で養った力を実際に使うという意味を持つ。したがって、できるだけ必然性のあるテーマや、目的のあるテーマで座談会を開くのがよい。このような座談会が定着してくると、日常の学校生活の中で必要に応じて座談会的な話し合いを持つことができるようになる。

活動は以下のように行った。教科書の例とは異なり、今回は、司会役は設けていない。学習活動をしぼりたかったことと、司会者のファシリテーションについては、別途取り立てて学習する予定としているためである。

A) 班を作る。（1分）

理想としては、生徒たちに適当に4・5人の班を作らせる。学習の必要に応じてその場ですぐに、公正かつ迅速な班編成が行えるようにすることも重要な学習指導の一つである。

B) 題材に沿って一人ずつ意見を言う。

C) 話し合う。

D) 振り返る。（5分）

これまでの活動の評価観点に従って、互いの聞き取りを評価する。（評価カード）

E) Aにもどって別の人と班を作る。

一回の座談会に要する時間は25分前後だった。今回は、2時間続きの特別時間割を設定し、時間内に4回の座談会を開くことができた。

座談会の題材は、下に列挙したものなどで行った。あくまでも座談会なので、必ずしも最終的な解決や実施にたどりつかなくてもよい。それぞれの話を聞き合い、問題を共有することに意識を集中させた。題材は事前に知らせておくこと意見に深まりが出る。

- 学級レクリエーションをしよう。
（意見の表明—協力して何かを作る。）
- 最近うれしかったこと、感動したこと。
（感情の表明）
- 言われていやだった言葉（感情の表明）
- 給食の食缶が片付けられずに残っていることが多いが、どうすればよいか。
（意見の表明—生活上の問題・社会問題を解決したり、考えたりする。）
- あいさつ運動は必要か。
（意見の表明—生活・社会）

以上のような実践を支える「聞く態度」の育成は必須である。また、一般に生徒も大人も「聞く」力はさほど高くないし、「聞くこと」は意識されることが多い。国語教師としては、まず自身の言語的態度や聞く力を精査することから始めるとよいと思う。

（島根県雲南市立大東中学校教諭 ひさむらしんじ）